

第7章 総括

1. 河原第6遺跡第2・3次調査の成果

河原第6遺跡は、熊本県阿蘇郡西原村大字河原字大野に所在する。本遺跡において、2015年および2017年に2度の発掘調査を実施した。調査目的は、後期旧石器時代の複数文化層の確認と年代測定資料の獲得である。調査では2つのトレンチを設けた。調査面積は18㎡である。調査の成果は以下の3つにまとめることができる。

① A-Tn火山灰層下位までの土壌堆積状況の確認

本遺跡では3層にアカホヤ火山灰、9層にAT火山灰が包含されていることが明らかとなった。1トレンチにおいて、AT火山灰包含層（9層）の下位、15層まで掘削した（掘削深度は約3.5m）。AT下位には分厚い黒色帯が認められ、その下位に明褐粘質土層を確認した。AT下位層準では火山灰等の特定には至らず、石器等人工物の出土は見られなかったが、黒色帯は上下の漸移層を含むと約70cm認められ、遺跡の東方約500mに位置する河原第3遺跡との土壌堆積の差異も確認された。

②旧石器時代2時期、縄文時代2時期の計4時期の文化層の確認

旧石器時代の文化層は、第1文化層が角錐状石器ないしナイフ形石器群終末期と推測される時期、第2文化層が細石刃石器群である。第1文化層は上面のみの調査で未確定部分が多いが、第2文化層では、径4～5mの石器集中部を検出し、187点の石器を回収した。第3・4文化層は、縄文時代の遺物包含層である。3層のアカホヤ火山灰ブロック包含層を挟んで、下位が縄文時代早期中ごろから後半、上位は細かい時期が不明であるものの、縄文時代前期以降のいずれかの時期の文化層である。第3・4文化層での遺物の出土は少ないものの、火山灰層との関係では時期の矛盾はない。

③第2文化層細石刃石器群の石器集中部の確認と年代測定データの獲得

第2文化層では、2トレンチにおいて細石刃石器群の石器集中部を確認した。規模は径4～5mであり、1トレンチを含めると187点の石器からなる。これらは、細石刃と削器、調整剥片を利用した加工具、そしてその他の製作残滓で構成される。細石刃核は1点のみの出土だが、野岳型と考えられる。利用石材は、腰岳系黒曜石が約60%を占め、これに椎葉川産黒曜石や小国産黒曜石、阿蘇4系黒曜石、安山岩、チャートなどが加わる。これらのうち、腰岳系黒曜石や阿蘇系石材では、規模は小さいものの石器製作痕跡が確認できるが、椎葉川産黒曜石やチャートではほとんど石器製作の痕跡が認められない。使用痕分析の結果も踏まえると、後者は製品状態で搬入され、廃棄（遺棄）されたものである可能性が高い。以上から、第2文化層石器群は、西北九州産石材とその石器を携えた集団が、阿蘇系石材を補充して、石器生産・使用活動がおこない残した石器群であると結論づけることができる。第2文化層では、遺構は確認できなかったものの、石器群周辺には炭化物の分布が認められた。これらのうち、2点の放射性炭素年代測定を実施したところ、 $14,740 \pm 50$ (IAAA-171430)、 $14,530 \pm 50$ (IAAA-171431) の近接した年代を得ることができた。この年代は、石器群の技術形態的特徴と一致し、河原第3遺跡細石刃石器群の年代（ $14,690 \pm 70$: Beta-135259）とも近似する。石材消費のあり方も類似しており、両石器群が行動領域を同じくする集団によって形成された可能性を示唆する。

2. 今後の課題

当初の目的であった、土壌堆積状況と複数文化層の確認という最低限の目的を達することはできたが、細石刃石器群下位の石器群の様相を把握することはできなかった。これは、第3次調査の目的を、細石刃石器群の石器集中部の全容把握としたためであるが、この細石刃石器群は小規模でありながら、その石材消費のあり方は、隣接する河原第3遺跡との関連を考える上で興味深いものであった。この細石刃石器群下位、7層以下の土壌堆積もきわめて良好である。採集石器から推測すると、7層以下にも石器群包含層が存在している可能性は高い。今後、継続的な調査をおこない、九州において不足しているAT上位石器群の年代測定データの獲得を目指したい。

今回の調査は2015年と2017年に実施したが、実は2016年にも調査を計画していた。計画を済ませた矢先、あの熊本地震が発生した。西原村も震度7に見舞われ甚大な被害を受けた。私が地震後はじめて西原村に入ったのは7月。道路は波打ち、ブルーシートに覆われた家々を見たとき、調査どころではないことを改めて感じた。第3次調査を計画したときも復興作業が続いており、調査をおこなってよいものか思案していたが、西原村教育委員会の皆様のご尽力により、無事調査を実施することができた。また、調査中は、拠点として小野集落の公民館を利用させていただいた。西原村でお世話になったすべての方々に感謝申し上げる次第である。

なお、本遺跡の発見者である福田正文さんが2017年10月に急逝された。その年、春の調査には毎日のように顔を出され、調査を見守って下さったので、あまりに突然の出来事で未だに信じられない気持ちでいる。末筆ながら本書をご霊前に捧げ、ご冥福をお祈りする次第である。

引用・参考文献

- 阿蘇狩人の会 2004「阿蘇周辺地域における旧石器文化新資料の紹介—その2—」『肥後考古』第12号、肥後考古学会、96-108頁。
- 阿蘇狩人の会 2005「阿蘇周辺地域における旧石器文化新資料の紹介—その3—」『肥後考古』第13号、肥後考古学会、1-23頁。
- 阿蘇狩人の会 2007「熊本県下における旧石器文化新資料の紹介—その1—」『肥後考古』第15号、肥後考古学会、1-12頁。
- 今田秀樹編 2003『亀石山遺跡・高瀬Ⅲ遺跡』天ヶ瀬町埋蔵文化財発掘調査報告書第7集、天ヶ瀬町教育委員会
- 小畑弘己 2007「阿蘇旧石器文化の特質」『阿蘇における旧石器文化の研究』、281-293頁。
- 木崎康弘 1985「遺跡の概観」『肥後考古』第5号、肥後考古学会、21-34頁。
- 芝康次郎 2007「非削片系細石刃石器群における行動論的考察」『阿蘇における旧石器文化の研究』、255-277頁。
- 芝康次郎 2011『九州における細石刃石器群の研究』六一書房、307頁。
- 芝康次郎・河原第6遺跡発掘調査団 2015「熊本県阿蘇郡西原村河原第6遺跡第2次発掘調査報告」『九州旧石器』第19号、九州旧石器文化研究会、99-106頁。
- 芝康次郎 2016「九州地方における初源期の細石刃石器群」『九州旧石器』第20号、九州旧石器文化研究会、41-56頁。
- 芝康次郎・小畑弘己編 2007『阿蘇における旧石器文化の研究』熊本大学文化区部考古学研究室研究報告第2集 熊本大学文学部考古学研究室。
- 中村友昭編 2005「河原第3遺跡4・河原第6遺跡1」『考古学研究室報告第40集』、熊本大学文学部考古学研究室。
- 御堂島正 1982「エッジ・ダメージの形成に関する実験的研究」『中部高地の考古学Ⅱ』長野県考古学会、66-98頁。
- 宮縁育夫 2004「自然科学的分析—土層とテフラの層序について」『河原第3遺跡3』考古学研究室報告第39集、熊本大学文学部考古学研究室、14-15頁。
- 宮縁育夫・杉山真二 2008「阿蘇火山南西麓のテフラ累層における最近約3万年間の植物珪酸体分析」『地学雑誌』117-4、704-717頁。